

景気動向調査結果報告書

【やお景況レポート】

2020年 第Ⅲ・四半期(7～9月) VOL. 98

八尾商工会議所
八 尾 市

目 次

【調査実施の概要】	1
【調査結果の総括】	2
1. 製造業の景気動向	5
2. 非製造業の景気動向	9
3. 2021 年の景気見通しと様々な支援策の情報入手先について	1 2
4. 新型コロナウイルス感染症の影響等の自由回答	1 6

【 調 査 実 施 の 概 要 】

本調査は、地域経済の総合的な動向を把握し、産業振興のための基礎資料の作成及び経営者への情報提供を目的として実施している。1996年7月に第1回目の景気動向調査を実施し、今回（2020年12月実施）の調査で98回目となる。

調査対象事業所は、八尾市内に立地する従業員5人以上の事業所を母集団として、その中から、製造業650社、非製造業（建設業、卸売業、小売業、サービス業）350社の合計1,000社を無作為に抽出した。

調査方法は、調査票を郵送し、回収をFAXで行った。

今回の回収率は下表に示すとおり、製造業が24.5%、非製造業が26.3%、全体では25.1%である（表1～2参照）。

（注）2013年4～6月期調査より調査方法の変更を行った。2014年1～3月期調査より調査対象事業所数を削減した（従来1,300社→1,000社）。

表1.業種別回答状況

業種	発送数	回答数	回収率
金属製品	164	38	23.2%
機械器具	187	41	21.9%
その他の製造業	299	80	26.8%
製造業計	650	159	24.5%
建設業	110	35	31.8%
卸売業	42	13	31.0%
小売業	68	19	27.9%
サービス業	130	25	19.2%
非製造業計	350	92	26.3%
合計	1,000	251	25.1%

表2.規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率	発送数	回答数	回収率
5～19人	366	85	23.2%	211	47	22.3%	577	132	22.9%
20～49人	188	51	27.1%	100	37	37.0%	288	88	30.6%
50～99人	57	17	29.8%	23	4	17.4%	80	21	26.3%
100～299人	27	5	18.5%	13	2	15.4%	40	7	17.5%
300人以上	12	1	8.3%	3	2	66.7%	15	3	20.0%
合計	650	159	24.5%	350	92	26.3%	1,000	251	25.1%

【調査結果の総括】

～新型コロナウイルス感染症の影響は継続、景況感は厳しい様相で推移～

7～9月期の八尾市の業況判断D I¹は全産業で▲37と、前回調査から11ポイント改善し、D I水準は前年同期から悪化の一途を辿っていたが、ようやく前期比プラスに転じた（2020年6月=▲48→2020年9月=▲37）。業種別にみると、製造業のD Iは▲47となり、前回調査から11ポイント改善した（6月=▲58→9月=▲47）。非製造業のD Iは▲18となり、前回調査から変動はなかった（6月=▲18→9月=▲18）。

経済活動は制約された状態ではあったが徐々に動き始め、特別定額給付金や観光振興策等の政策効果や、製造業拠点の国内回帰等も期待値を押し上げ、国内景気にプラス要因となった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は継続しており、さらに長雨や台風、猛暑による影響は業界によって明暗が分かれる結果になった。医療系や猛暑対策商品のメーカー等はプラスの要因となったが、農作物の生産不足による価格高騰は新型コロナウイルス感染症の影響を受けている飲食関連産業にさらにマイナス要因となった。

今後については、感染拡大防止と経済活動のバランスをどう捉えるかが重要になるとみられ、各政策の効果が期待されるものの、感染状況に左右される感は否めず、引き続き慎重な対応が求められる。

図1. 業種別天気図(景気水準)

	2019年10～12月期		2020年1～3月期		2020年4～6月期		今回 2020年7～9月期		天気図 前回比較
全産業		▲ 13		▲ 29		▲ 48		▲ 37	
製造業		▲ 18		▲ 26		▲ 58		▲ 47	
金属製品		▲ 15		▲ 27		▲ 77		▲ 53	
機械器具		▲ 9		▲ 45		▲ 40		▲ 53	
その他の製造業		▲ 24		▲ 12		▲ 56		▲ 41	
非製造業		3		▲ 35		▲ 18		▲ 18	
建設業		19		▲ 13		▲ 8		▲ 13	
卸売業		▲ 22		▲ 56		▲ 57		▲ 27	
小売業		▲ 100		▲ 50		33		▲ 8	
サービス業		10		▲ 43		▲ 18		▲ 26	

※数値は業況判断D I。景況天気図で示した景況判断は、業況判断D I値によって判定。本設問は2012年4～6月期調査より開始しており、景況判断は暫定的に、D I値がプラス10以上であれば晴れ ☀、0～9は薄曇 ☁、▲10～▲11は曇り ☁、▲20～▲11は小雨 🌧、▲21以下は雨 🌧 とした。
図表における前回調査との比較の矢印マークは、景況天気図に基づくものであり、 が好転、 が横ばい、 が悪化を示す。

¹ D Iは、各景況項目について、「良い、上昇、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、下落、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。日銀短観や本調査における「業況判断D I」は「良い」から「悪い」を引いた「水準」調査であるのに対して、本調査における「業況判断D I」以外の項目（「生産額」、「出荷額」など）は前期・前年同期と比べての「増加」などから「減少」などを引いた「方向性」調査である。なお、本稿ではマイナスを「▲」と表している。

日銀短観²（2020年9月調査）における全国および近畿の業況判断DI（全産業・全規模）と比較してみる。まず、全国では前回調査より3ポイント、近畿では4ポイントの改善となり、景気の業況判断DIは後退に歯止めがかかった。八尾市においては、全国、近畿と同様に全産業、製造業DI値は改善しているが、非製造業においては前期比横ばいの推移となった。（図2～4）。

図2. 全産業・全規模の業況判断DI推移

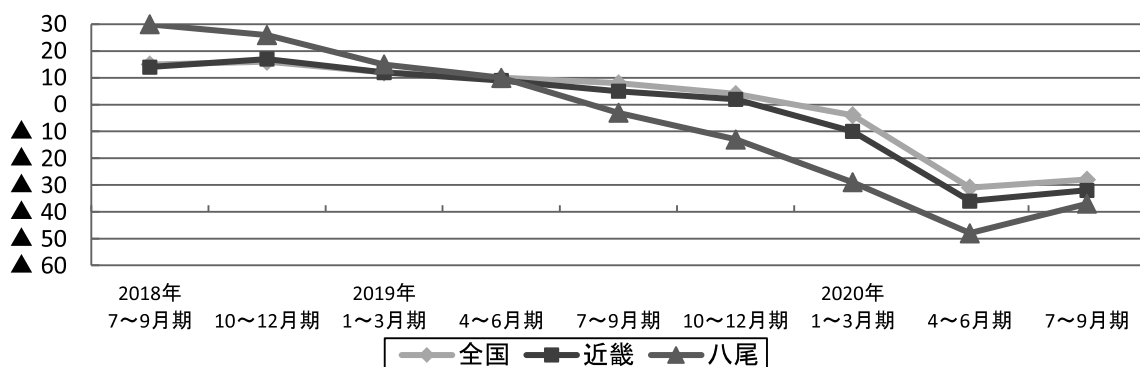


図3. 製造業・全規模の業況判断DI推移

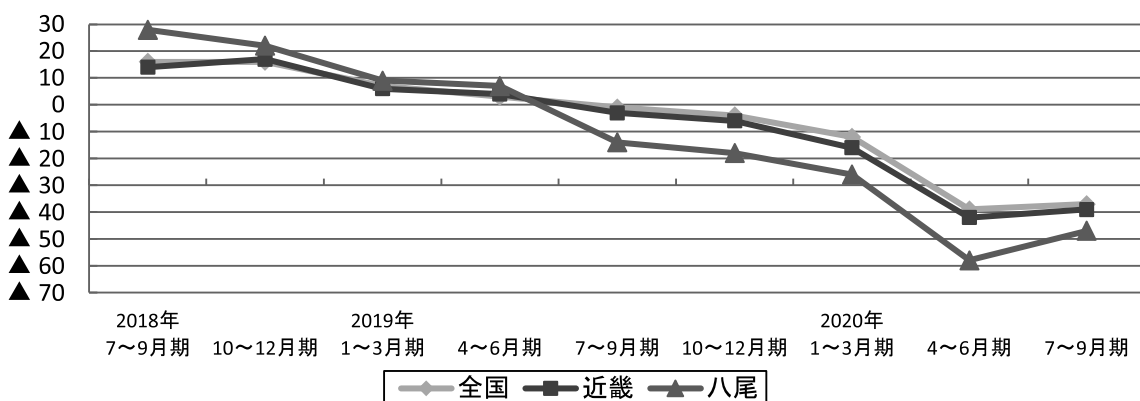
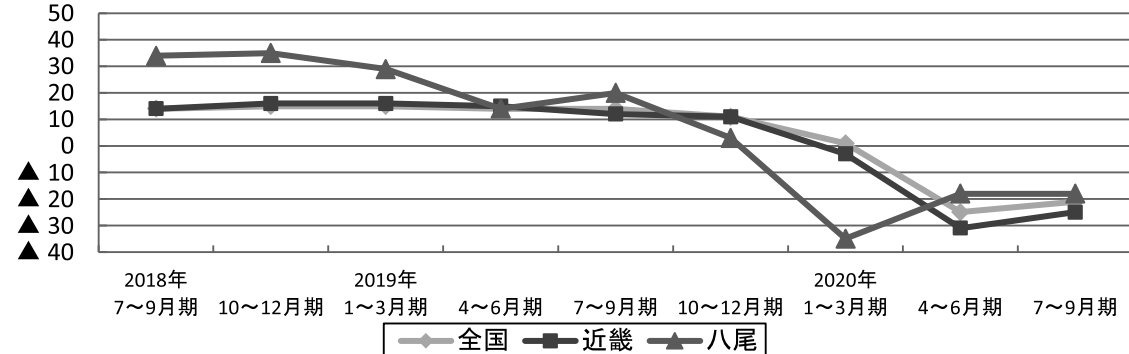


図4. 非製造業・全規模の業況判断DI推移



（資料）日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査-近畿地区-」

² 日銀短観は日本銀行「全国企業短期経済観測調査」の略。

景気の方角感を八尾市の各種前年同期比のD I³で確認すると（図5～6）、製造業の「生産額」、「製品販売価格」、「設備投資額」全てで悪化したがマイナス幅は鈍化した推移となった。一方、非製造業では「設備投資額」、「売上額」、「販売先数・客数」全てで良化し、製造業と異なる推移となった。

図5. 製造業の各種「前年同期比」DI推移

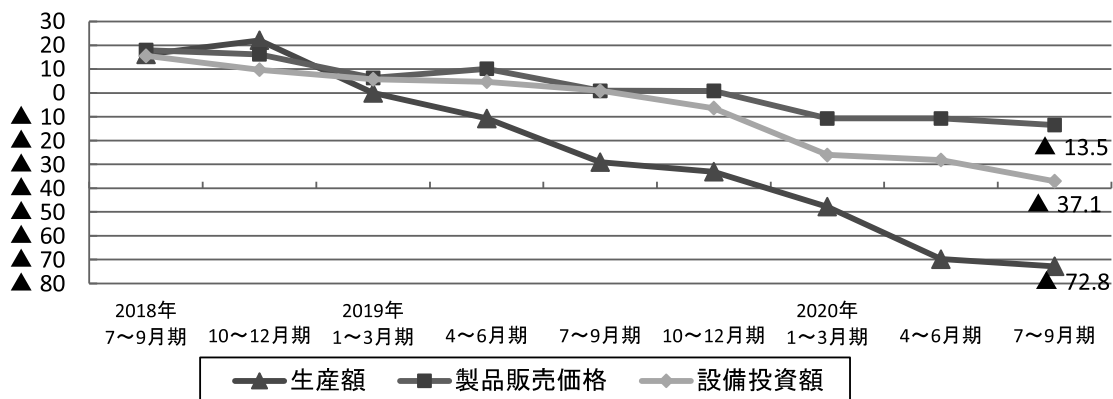
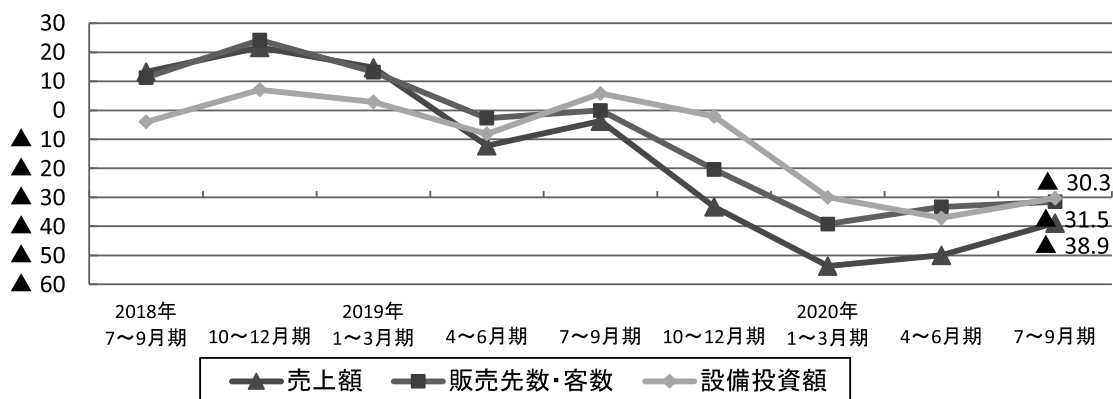


図6. 非製造業の各種「前年同期比」DI推移



³ 「前年同期比」D Iは、各景況項目について、前年同期と比較して「良い、増加」などと答えた企業の割合から「悪い、減少」などと答えた企業の割合を引いた数値。

1. 製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



【生産額】

製造業の2020年7～9月期における生産額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲66.0（▲はマイナスを表す、以下同様）とマイナス（減少超）で推移した（前々回▲38.9→前回▲69.2→今回▲66.0）。

表3. 生産額(前期比)

業種	当期生産額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	37	5.4	21.6	73.0	▲ 67.6	▲ 75.5
機械器具	37	5.4	27.0	67.6	▲ 62.2	▲ 68.9
その他の製造業	76	5.3	22.4	72.4	▲ 67.1	▲ 64.7
製造業計	150	5.3	23.3	71.3	▲ 66.0	▲ 69.2

前年同期と比べた生産額D Iでも、▲72.8 とマイナス（減少超）が続いた（前々回▲47.8→前回▲69.8→今回▲72.8）。

表4. 生産額(前年同期比)

業種	当期生産額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	38	5.3	7.9	86.8	▲ 81.5	▲ 78.0
機械器具	38	7.9	21.1	71.1	▲ 63.2	▲ 68.9
その他の製造業	75	5.3	16.0	78.7	▲ 73.4	▲ 64.1
製造業計	151	6.0	15.2	78.8	▲ 72.8	▲ 69.8

【出荷額】

7～9月期の出荷額D I（前期比、「増加」－「減少」）は▲66.5 と、マイナス（減少超）で推移した（前々回▲44.2→前回▲73.1→今回▲66.5）。業種別内訳をみると、金属製品、機械器具でマイナス幅が縮小した影響で、製造業全体でもマイナス幅が縮小している。

表5. 出荷額

業種	当期出荷額は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	36	8.3	13.9	77.8	▲ 69.5	▲ 76.6
機械器具	37	5.4	29.7	64.9	▲ 59.5	▲ 77.7
その他の製造業	76	5.3	21.1	73.7	▲ 68.4	▲ 67.6
製造業計	149	6.0	21.5	72.5	▲ 66.5	▲ 73.1

【製品在庫】

7～9月期の製品在庫D I（前期比、「不足」－「過剰」）は▲29.5 と、マイナス（過剰超）幅が拡大した（前々回▲17.8→前回▲20.7→今回▲29.5）。業種別内訳をみると、すべての業種でマイナス幅が拡大した結果、製造業全体でマイナス幅が拡大した。

表6. 製品在庫

業種	当期製品在庫は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		不足	適正	過剰		
金属製品	31	0.0	71.0	29.0	▲ 29.0	▲ 22.2
機械器具	37	2.7	70.3	27.0	▲ 24.3	▲ 18.2
その他の製造業	71	1.4	64.8	33.8	▲ 32.4	▲ 21.2
製造業計	139	1.4	67.6	30.9	▲ 29.5	▲ 20.7

【原材料仕入価格】

7～9月期の原材料仕入価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は14.5 と、プラス（値上超）幅が拡大した（前々回 6.2→前回 4.3→今回 14.5）。業種別内訳をみると、金属製品でマイナス（値下超）からプラスに転じ、機械器具、その他の製造業でもプラス幅が拡大した。

表7. 原材料仕入価格

業種	当期原材料仕入価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	35	11.4	82.9	5.7	5.7	▲ 2.0
機械器具	38	15.8	84.2	0.0	15.8	6.7
その他の製造業	72	23.6	70.8	5.6	18.0	7.4
製造業計	145	18.6	77.2	4.1	14.5	4.3

【製品販売価格】

7～9月期の製品販売価格D I（前期比、「値上」－「値下」）は▲6.1 と、マイナス（値下超）幅がわずかに縮小した（前々回▲5.4→前回▲6.2→今回▲6.1）。業種別内訳をみると、機械器具はマイナス幅が縮小したものの、金属製品、その他の製造業でマイナス幅が拡大し、製造業全体としてマイナス幅がわずかに縮小した。

表8. 製品販売価格（前期比）

業種	当期製品販売価格は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	35	0.0	91.4	8.6	▲ 8.6	▲ 8.2
機械器具	38	5.3	84.2	10.5	▲ 5.2	▲ 6.7
その他の製造業	74	4.1	86.5	9.5	▲ 5.4	▲ 4.4
製造業計	147	3.4	87.1	9.5	▲ 6.1	▲ 6.2

前年同期と比較した製品販売価格D Iは▲13.5とマイナス(値下超)幅が拡大した(前々回▲10.7→前回▲10.7→今回▲13.5)。

表9. 製品販売価格(前年同期比)

業種	当期製品販売価格は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		値上	横這	値下		
金属製品	36	2.8	80.6	16.7	▲ 13.9	▲ 22.4
機械器具	39	5.1	71.8	23.1	▲ 18.0	▲ 6.8
その他の製造業	73	4.1	80.8	15.1	▲ 11.0	▲ 4.4
製造業計	148	4.1	78.4	17.6	▲ 13.5	▲ 10.7

【 採 算 状 況 】

7～9月期の採算状況D I(前期比、「好転」－「悪化」)は▲57.3とマイナス(悪化超)幅が拡大した(前々回▲41.6→前回▲55.2→今回▲57.3)。業種別内訳をみると、機械器具でマイナス幅が縮小したが、金属製品、その他の業種でマイナス幅が拡大した。

表10. 採算状況

業種	当期採算状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	37	2.7	35.1	62.2	▲ 59.5	▲ 58.0
機械器具	39	0.0	46.2	53.8	▲ 53.8	▲ 66.7
その他の製造業	76	1.3	39.5	59.2	▲ 57.9	▲ 45.5
製造業計	152	1.3	40.1	58.6	▲ 57.3	▲ 55.2

【 資 金 繰 り 】

7～9月期の資金繰りD I(前期比、「好転」－「悪化」)は▲34.9でマイナス(悪化超)幅が拡大した(前々回▲25.7→前回▲30.4→今回▲34.9)。業種別内訳をみると、機械器具、その他の製造業でマイナス幅は縮小したものの、金属製品でのマイナス幅がかなり拡大した結果、製造業のマイナス幅が拡大している。

表11. 資金繰り

業種	当期資金繰りは前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	37	5.4	29.7	64.9	▲ 59.5	▲ 32.6
機械器具	40	2.5	75.0	22.5	▲ 20.0	▲ 27.3
その他の製造業	75	1.3	66.7	32.0	▲ 30.7	▲ 30.9
製造業計	152	2.6	59.9	37.5	▲ 34.9	▲ 30.4

【受注状況】

7～9月期の受注状況DI（前期比、「好転」－「悪化」）は▲66.5とマイナス（悪化超）幅が縮小した（前々回▲55.4→前回▲75.4→今回▲66.5）。業種別内訳をみると、金属製品でマイナス幅が拡大したが、機械器具、その他の製造業でマイナス幅が縮小している。

表12. 受注状況

業種	当期受注状況は前期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	37	8.1	8.1	83.8	▲ 75.7	▲ 74.0
機械器具	40	2.5	35.0	62.5	▲ 60.0	▲ 82.3
その他の製造業	75	4.0	26.7	69.3	▲ 65.3	▲ 72.0
製造業計	152	4.6	24.3	71.1	▲ 66.5	▲ 75.4

【設備投資額】

7～9月期の設備投資額DI（前年同期比、「増加」－「減少」）は▲37.1と、マイナス（減少超）幅が拡大した（前々回▲26.1→前回▲28.2→今回▲37.1）。業種別内訳をみると、機械器具でマイナス幅がやや減少したものの、他の2業種でマイナス幅が拡大、特に金属製品が大きくマイナスに振れたため、全体でのマイナス幅は拡大している。

表13. 設備投資額

業種	当期設備投資額は前年同期に比べて					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		増加	横這	減少		
金属製品	36	2.8	50.0	47.2	▲ 44.4	▲ 16.3
機械器具	40	7.5	50.0	42.5	▲ 35.0	▲ 36.4
その他の製造業	72	2.8	59.7	37.5	▲ 34.7	▲ 31.3
製造業計	148	4.1	54.7	41.2	▲ 37.1	▲ 28.2

【向こう3カ月の景況】

7～9月期における向こう3カ月の景況判断DI（「好転」－「悪化」）は▲46.3と、マイナス（悪化超）幅は縮小した（前々回▲78.8→前回▲53.7→今回▲46.3）。業種別内訳をみると、金属製品でマイナス幅が拡大したが、機械器具、その他の製造業でマイナス幅が縮小した結果、製造業全体のマイナス幅は縮小している。

表14. 向こう3カ月の景況

業種	向こう3カ月の景況					
	回答数	構成比(%)			DI	前回DI
		好転	横這	悪化		
金属製品	34	5.9	17.6	76.5	▲ 70.6	▲ 60.0
機械器具	40	12.5	42.5	45.0	▲ 32.5	▲ 48.9
その他の製造業	75	13.3	30.7	56.0	▲ 42.7	▲ 52.2
製造業計	149	11.4	30.9	57.7	▲ 46.3	▲ 53.7

2. 非製造業の景気動向

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

小雨



建設業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

小雨



7～9月期の状況を各種DI（前期比）でみると、資材仕入単価と労務費がプラス（値上超）幅が前回より縮小した。資材仕入単価と労務費以外はすべてマイナス領域での推移となり、資金繰りではマイナス（悪化超）幅が拡大したが、その他の指標ではマイナス（減少超・値下超・悪化超）幅は縮小している。全体的にマイナス幅は縮小したものの、プラス幅も同様に縮小した影響で建設業の景気動向としては前回より悪化した。

前年同期比DIをみると、売上額、受注状況でマイナス幅が縮小したものの、設備投資額のマイナス幅は拡大している。

表15.建設業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	34	14.7	32.4	52.9	▲ 38.2	▲ 42.1
	資材仕入価格	34	11.8	85.3	2.9	8.9	26.3
	労務費	34	8.8	88.2	2.9	5.9	15.8
	工事引合件数	31	9.7	45.2	45.2	▲ 35.5	▲ 57.9
	受注単価	33	0	84.8	15.2	▲ 15.2	▲ 42.1
	採算状況	33	3	66.7	30.3	▲ 27.3	▲ 42.1
	資金繰り	34	8.8	70.6	20.6	▲ 11.8	▲ 5.6
	受注状況	33	6.1	54.5	39.4	▲ 33.3	▲ 47.3
前年同期比	向こう3ヵ月の景況	34	8.8	47.1	44.1	▲ 35.3	▲ 36.8
	売上額	34	14.7	32.4	52.9	▲ 38.2	▲ 50.0
	受注状況	34	5.9	47.1	47.1	▲ 41.2	▲ 47.4
	設備投資額	32	6.3	37.5	56.3	▲ 50.0	▲ 47.3

卸売業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

雨



7～9月期の状況を各種D I（前期比）でみると、全体的に改善の方向にシフトしているものの、マイナスの領域から脱するには至っていない。売上額、客単価、採算状況、向こう3ヵ月の景況はマイナス（減少超・悪化超）幅が縮小し、商品仕入価格と商品在庫、商品販売単価、粗利益率は前回値から±0へ移行した。資金繰りは前回値±0からプラス（好転超）へ移行となり、その他の指標も改善へ移行していることから、現状の停滞感から脱する動きが期待される。

前年同期とのD Iの比較でみると、売上額はマイナス幅が縮小したものの、販売先数・客数でマイナス幅が拡大した。設備投資額はマイナス（減少超）から±0へ移行している。

表16.卸売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	13	23.1	30.8	46.2	▲ 23.1	▲ 38.4
	販売先数・客数	13	7.7	76.9	15.4	▲ 7.7	▲ 7.7
	客単価	12	8.3	75.0	16.7	▲ 8.4	▲ 23.1
	商品仕入価格	12	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	商品在庫	11	9.1	81.8	9.1	0.0	▲ 15.4
	商品販売価格	13	7.7	84.6	7.7	0.0	▲ 7.7
	採算状況	13	7.7	53.8	38.5	▲ 30.8	▲ 53.8
	資金繰り	12	16.7	75.0	8.3	8.4	0.0
	粗利益率	12	16.7	66.7	16.7	0.0	▲ 30.8
	向こう3ヵ月の景況	13	15.4	46.2	38.5	▲ 23.1	▲ 38.4
前年比	売上額	13	23.1	7.7	69.2	▲ 46.1	▲ 53.8
	販売先数・客数	13	15.4	53.8	30.8	▲ 15.4	▲ 8.4
	設備投資額	12	16.7	66.7	16.7	0.0	▲ 41.7

小売業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)

曇り



7～9月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額、販売先数・客数、商品在庫で前回値±0からマイナス（減少超、過剰超）へ移行した。客単価、商品仕入価格はプラス（増加超、値上超）幅が縮小、粗利益率はマイナス（悪化超）へ転化し、景況感は卸売業と相反して悪化方向へ移行している。

前年同期との比較では、売上額のマイナス（減少超）幅は拡大したが、販売先数・客数、設備投資額ではマイナス（減少超）幅は縮小した。

表17.小売業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	18	27.8	16.7	55.6	▲ 27.8	0.0
	販売先数・客数	16	12.5	62.5	25.0	▲ 12.5	0.0
	客単価	15	13.3	86.7	0.0	13.3	20.0
	商品仕入価格	17	17.6	76.5	5.9	11.7	40.0
	商品在庫	17	5.9	82.4	11.8	▲ 5.9	0.0
	商品販売価格	16	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	採算状況	17	5.9	58.8	35.3	▲ 29.4	▲ 20.0
	資金繰り	16	12.5	75.0	12.5	0.0	0.0
	粗利益率	17	11.8	64.7	23.5	▲ 11.7	20.0
	向こう3ヵ月の景況	17	23.5	52.9	23.5	0.0	▲ 20.0
前年同期比	売上額	18	27.8	11.1	61.1	▲ 33.3	▲ 20.0
	販売先数・客数	17	23.5	35.3	41.2	▲ 17.7	▲ 20.0
	設備投資額	17	23.5	35.3	41.2	▲ 17.7	▲ 60.0

サービス業

景況天気図は

(前回)



⇒

(今回)



7～9月期の状況を各種D I（前期比）でみると、売上額、客数でプラス（増加超）へ転じたが、客単価はマイナス（減少超）へ転じた。その他の指標ではマイナス（減少超、悪化超）幅が縮小したが、依然マイナスの領域内での推移に留まっており、景況感は低迷している。

前年同期との対比では、売上額、客数でマイナス（減少超）幅が縮小したが、設備投資額でマイナス（減少超）幅は拡大している。

表18.サービス業の景気動向

景気動向指標		回答数	構成比(%)			DI	前回DI
			増加 不足 値上 好転	横這 適正	減少 過剰 値下 悪化		
前期比	売上額	25	40.0	32.0	28.0	12.0	▲ 38.4
	客数	25	32.0	44.0	24.0	8.0	▲ 33.3
	客単価	25	12.0	64.0	24.0	▲ 12.0	4.1
	採算状況	25	20.0	52.0	28.0	▲ 8.0	▲ 30.8
	資金繰り	25	16.0	56.0	28.0	▲ 12.0	▲ 30.8
	粗利益率	25	8.0	60.0	32.0	▲ 24.0	▲ 27.0
	向こう3ヵ月の景況	25	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	▲ 50.0
前年同期比	売上額	25	20.0	20.0	60.0	▲ 40.0	▲ 53.9
	客数	25	20.0	24.0	56.0	▲ 36.0	▲ 37.5
	設備投資額	25	8.0	56.0	36.0	▲ 28.0	▲ 23.1

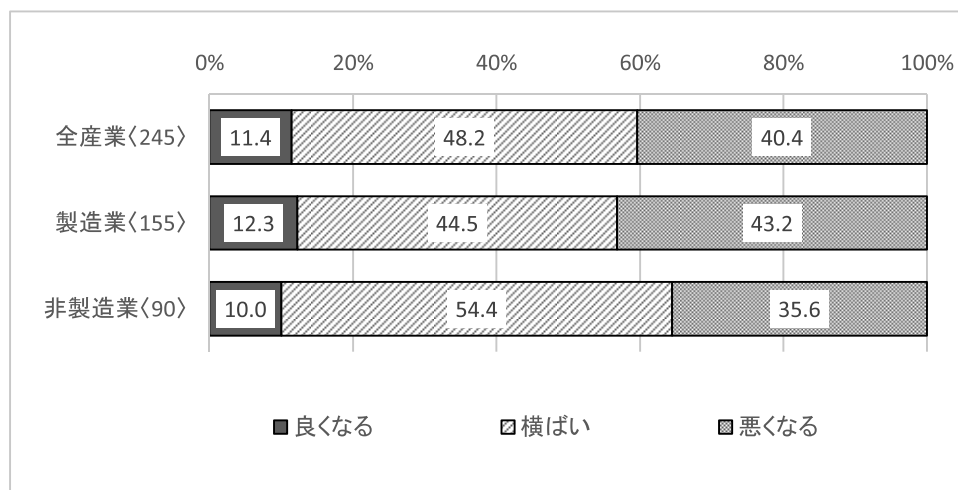
3. 2021 年の景気見通しと様々な支援策の情報入手先について

(1) 2021 年の景気見通しについて

2021 年の景気見通しについて尋ねたところ、全体（回答事業所数は 245）では、「横ばい」（48.2％）の割合が最も高く、次いで「悪くなる」（40.4％）、「良くなる」（11.4％）と続いている。前年同期に同様の設問（2020 年の景気見通しについて）をしているが、前期よりも「悪くなる」の割合が増加しており、先行きの景況感に慎重な姿勢がみられる。

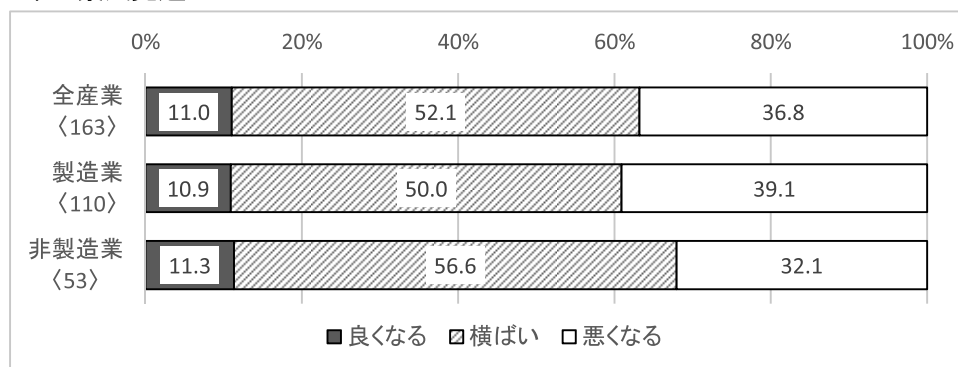
業種別でみると、「良くなる」で 2.3 ポイント、「悪くなる」で 7.6 ポイント製造業が非製造業を上回っている（図 7）。

図 7. 2021 年の景気見通し



(注) 〈 〉 内は回答事業所数。

(参考) 2020 年の景気見通し



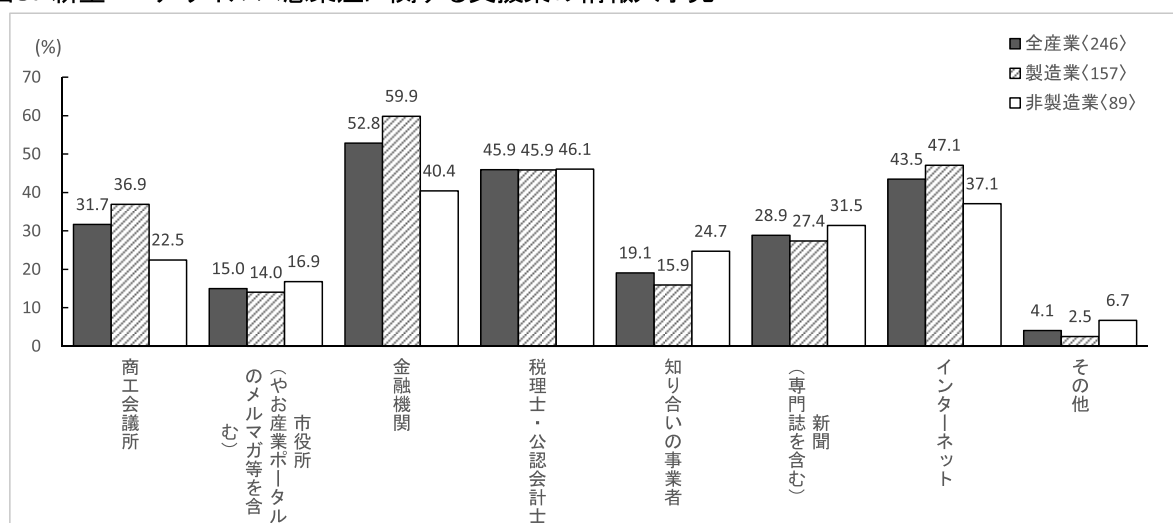
(注) 〈 〉 内は回答事業所数。

（２）新型コロナウイルス感染症に関する様々な支援策の情報入手先

国、府、市などの公的機関から出されている新型コロナウイルス感染症に関する様々な支援策の情報の入手先を尋ねたところ、全体（回答事業所数は 246）では、「金融機関」（52.8%）の割合が最も高く、次いで「税理士・公認会計士」（45.9%）、「インターネット」（43.5%）の順で続いている。

業種別にみると、製造業でも「金融機関」（59.9%）の割合が最も高くなり、次いで「インターネット」（47.1%）、「税理士・公認会計士」（45.9%）と続いている。非製造業では「税理士・公認会計士」（46.1%）の割合が最も高く、次いで「金融機関」（40.4%）、「インターネット」（37.1%）と続いている。

図8. 新型コロナウイルス感染症に関する支援策の情報入手先



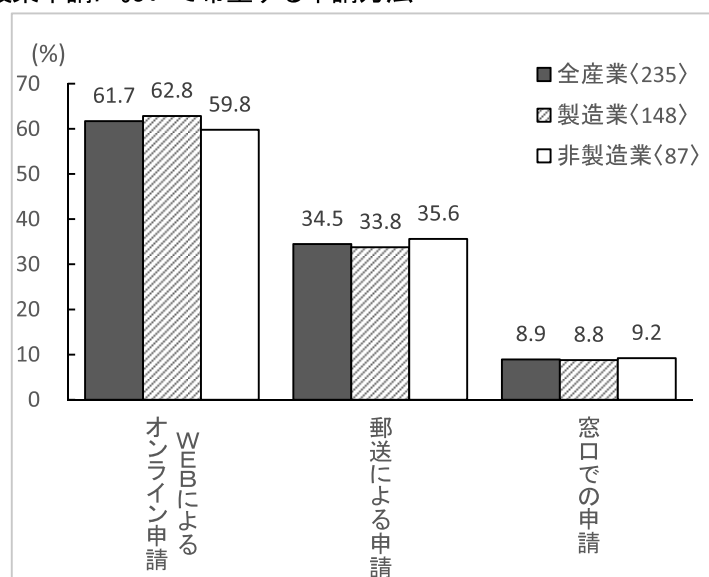
(注) 〈 〉 内は回答事業所数。

（３）公的機関の支援策申請において希望する申請方法

公的機関（地方公共団体・行政機関等）の支援策に対し、申請手続きをする場合の希望申請方法について尋ねたところ、全体（回答事業所数は235）では「WEBによるオンライン申請」（61.7％）の割合が最も高く、6割以上を占めた。次いで「郵送による申請」（34.5％）、「窓口での申請」（8.9％）となり、オンラインでの対応希望が高い結果となった。

業種別にみても全体の動きと同様の割合となったが、「WEBによるオンライン申請」では製造業の割合が若干高く、「郵送による申請」で非製造業の割合が若干高くなっている。

図9. 公的機関の支援策申請において希望する申請方法



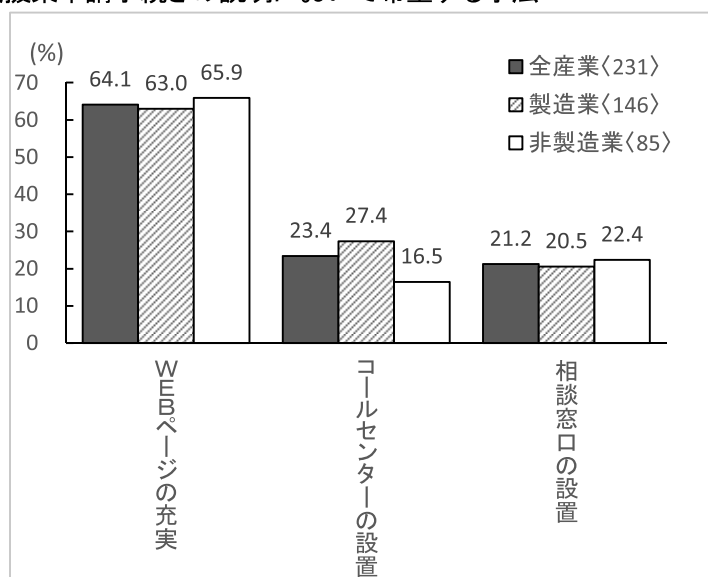
（注）〈 〉内は回答事業所数。

（４）公的機関の支援策申請手続きの説明について希望する手法

公的機関（地方公共団体・行政機関等）の支援策に対し、申請手続きの説明について希望する手法を尋ねたところ、全体（回答事業所数は231）では「WEB ページの充実」（64.1％）の割合が最も高く、6割強を占めた。次いで「コールセンターの設置」（23.4％）、「相談窓口での設置」（21.2％）となり、ここでもオンラインでの対応希望割合は高くなったが、コールセンターや相談窓口等の対人対応を望む割合もそれぞれ2割以上存在しており、複数の対応手法が必要と取れる結果となった。

業種別にみても全体の動きと同様の割合となったが、製造業では「コールセンターの設置」（27.4％）を希望する割合が高く、非製造業では「相談窓口の設置」（22.4％）を希望する割合が高くなっている。

図 10. 公的機関の支援策申請手続きの説明において希望する手法



（注）〈 〉内は回答事業所数。

4. 新型コロナウイルス感染症の影響等の自由回答

各業界から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種	規模	コメント内容
製造業	A	勤務態勢の変化の対応を考案中。
製造業	A	和風フローリング(自社、フェリスフローア)に抗菌材練り込み樹脂を併用開発途中です。塩ビ系の素材を加工する工程を考えている。
製造業	A	メインのお得意先が京都や観光地が多い為大打撃を受けましたが、悪いコトばかりではなく、卸から小売やオンラインへのシフトチェンジ、大人数から小人数の体験教室へのシフトチェンジをするきっかけを作ってくれたと思っています。
製造業	A	新型コロナウイルス対策製品(パネル・フェイスシールド等)を製造・販売している事もあり、仕事は忙しいですが、逆に従業員の健康管理が気になります。
製造業	A	家賃の支援があるが、工場社屋を買取している所には支援が無いのはおかしい。(毎月の支払がある)
製造業	A	金融機関からの借入で当面凌いでいるが、完済できる見込みが立たない。
製造業	A	いつコロナ感染になるか、その時仕事は出来るのか不安です。
製造業	A	注文数が1/4になった。
製造業	A	申請手続をWEBでできるのはいいいが、細かい問い合わせをしたい時窓口がほしい。
製造業	B	前半(4、5月)の低迷がひどく、持ち直しつつあるが、まだまだ先行きが不安。
製造業	B	先行きは不透明で不安である。
製造業	B	「コロナの封じ込め」と「経済を回す」の両方追ってもうまくいくはずがないと思います。中国は自由(経済含む)と命を天びんにかけ命を選んでいきます。参考にしてみてもと思います。
製造業	B	あまり影響を受けていない業種ですが、これ以上長引くと業況は悪くなると思います。
製造業	A	顧客の営業マンがコロナの影響で、医療機関から訪問を断られている。
建設業	A	出かける事が少なくなった今、銀行から貸付の話がくると使わない(預金する)人が多いのだと思う。お金が回らない世の中景気の悪さが感じられる。資本は健康体が現行1番なのではないでしょうか……
建設業	A	弊社はコロナの影響で少しマイナスになりましたが、ここにきてプラスになってきているので良いのかと思っています。ただ、今後の見通しについてはわかりません。
建設業	B	工事の延期や見直しが増えました。
建設業	B	飲食関係の方々本当に大変だと思います。頑張ってください。
卸売業	A	新規顧客開拓がコロナ禍により出来ない。(訪問、アポが取れない)

業種	規模	コメント内容
卸売業	A	社内外問わずリモートが進んでいない。営業活動が難しい。
卸売業	A	未知の感染症への対応の不明。本人のみならず、周囲の人達への影響の深刻さ。弊社など誰か罹患すれば、即操業停止となる。零細業の悲哀。
卸売業	A	業種によりかなり温度差はあるが、通常の人々の往来が戻らない限り難しい。
サービス業	B	教育機関であるため売上等に関しては全くコロナの影響がなく、休園期間中も賃金は100%支払いを行ないました。コロナについては様々なお考えの保護者様がおられ、対応に苦慮しておりますがいたしかたないと思っています。
サービス業	B	介護事業所に特化した補助金額の増額。
サービス業	A	当方は学生寮と学生マンションを経営しており、特に景気に左右されていません。只、感染防止には非常に苦慮しております。
サービス業	A	広告関係のため影響がとて大きく、戻るまでかなりの時間がかかりそう。対策が必要。

(注1) 規模：A＝5～19人、B＝20～49人、C＝50～99人、D＝100～299人、E＝300人以上

(注2) コメントはできるだけ原文のまま掲載しているが、一部にご意見の主旨を曲げることなく加筆・修正している場合がある。また、調査を実施した2020年4月時点でのものである。

 八尾商工会議所

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)922-1181
<http://www.yaocci.or.jp>

 八尾市 経済環境部産業政策課

〒581-0006 八尾市清水町1-1-6 TEL (072)924-3845
八尾商工会議所会館内
<http://www.city.yao.osaka.jp>